



NewsRelease

IBS(過敏性腸症候群)に関する医療統計データ分析を実施しました

— 女性の患者数が多く、男性の患者数は、近年急増傾向 —

株式会社日本医療データセンター（本社：東京都港区、代表取締役社長：木村真也）は、IBS（過敏性腸症候群）に関する医療統計データ分析を実施しました。

その結果、IBSにおける患者属性は、女性群53%、男性群47%と女性群の構成比が高いことが観察されました。一方、男性群における患者数推移は、2005年459,734人に対し2012年は971,397人と近年急増傾向にある実態が浮かび上がりました。

株式会社日本医療データセンターでは、今後、メディア様、媒体社様を通じて生活者の皆様への健康増進に関する啓発活動へ努めて参ります。

《調査概要》

分析テーマ：過敏性腸症候群(K58)に関する患者属性分析

分析方法：診療報酬明細書(レセプト)分析

分析対象：日本在住の全年齢、男女

分析期間：2005年1月～2012年12月

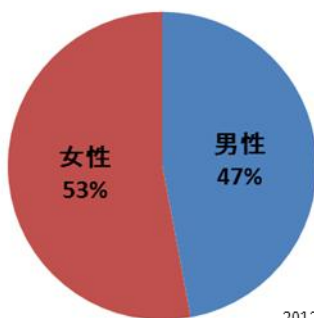
サンプル数：350,000名

分析実施日：2013年8月

《調査結果》

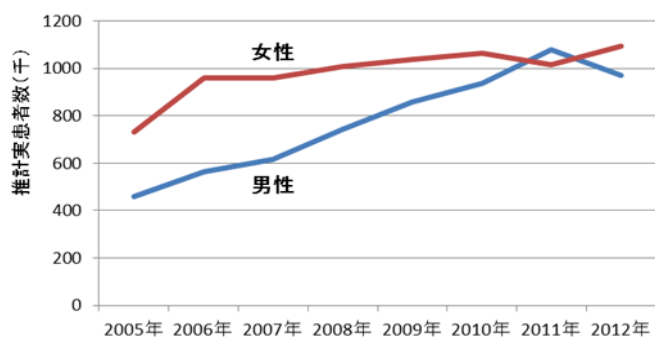
1. IBS患者の性別割合と年次別推移

【図1】 性別患者数割合



2012年1月～12月

【図2】 患者数の年次推移



- ・ IBS患者の属性は、女性群53%、男性群47%と女性が多い。
- ・ 2005年からの観測結果では、年々増加傾向にあり、特に男性群は2005年459,734人で2012年には971,397人と、患者数が約2倍急増している。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社日本医療データセンター ヘルスケア事業部 コーポレート・コミュニケーショングループ
〒105-0012 東京都港区芝大門2-5-5 住友芝大門ビル12F

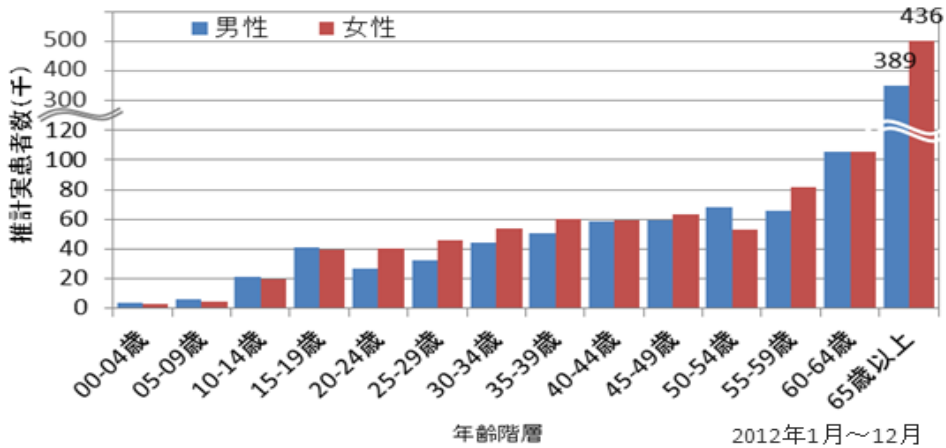
Tel : 03-5733-5012 fax : 03-5733-5101

E-Mail hcservice@imdc.co.jp URL <http://www.imdc.co.jp/>

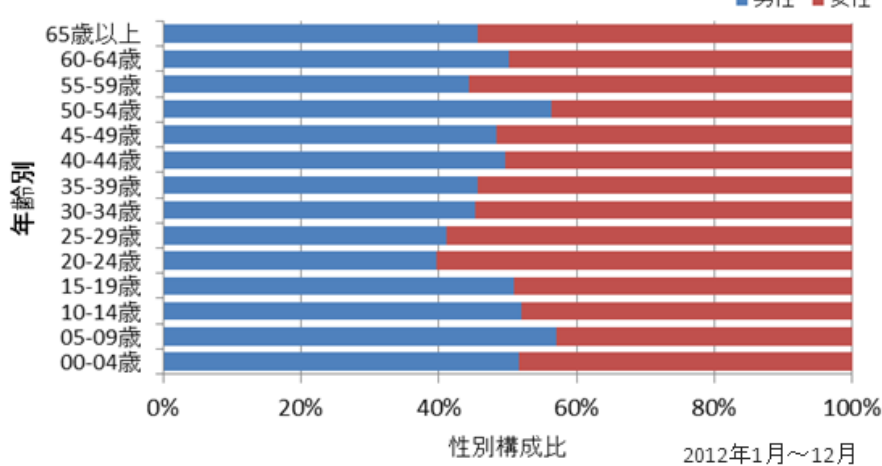
NewsRelease

2. 年齢別性別患者数と構成比

【図3】 年齢別性別患者数



【図4】 年齢性別患者数構成比



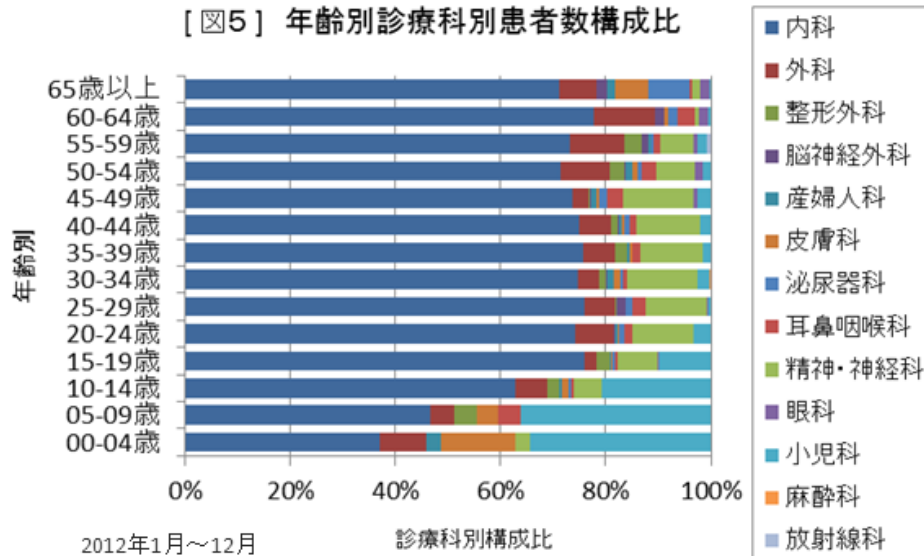
- ・ 15歳-19歳では男女ともに高く、女性群は20代から30代に増加傾向にある。
- ・ 構成比をみると、20代から30代では男性群より女性群が多く、40歳以降になると男性群の割合が女性群より多い。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社日本医療データセンター ヘルスクエア事業部 コーポレート・コミュニケーショングループ
〒105-0012 東京都港区芝大門2-5-5 住友芝大門ビル12F
Tel : 03-5733-5012 fax : 03-5733-5101
E-Mail hcservice@imdc.co.jp URL <http://www.imdc.co.jp/>

NewsRelease

3. 年齢別受診診療科



- ・年齢レンジ別の受診診療科は、どの年齢においても内科での受診が多くを占めている。一方、20-50代群においては、精神科・神経科における受診割合も高い。

【株式会社日本医療データセンター】

わが国の社会の高度情報化が進む今日、医療・ヘルスケアを取り巻く環境には、信頼性の高い客観的なデータが不足している現状があります。例えばある疾患の全国推計患者数を把握できなければ、その疾患が社会に及ぼす影響を正確に見積ることができません。

株式会社日本医療データセンターは、診療報酬明細書(レセプト)を活用し、その統計データを社会生活者の皆様の健康に役立てたいと考えます。複雑なレセプト情報をクレンジング、標準化し、「不可逆的匿名化技術」により個人を識別できないデータに変換、データベース化することで解析・活用できる体制を構築しています。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社日本医療データセンター ヘルスケア事業部 コーポレート・コミュニケーショングループ
 〒105-0012 東京都港区芝大門2-5-5 住友芝大門ビル12F
 Tel : 03-5733-5012 fax : 03-5733-5101
 E-Mail hcservice@imdc.co.jp URL <http://www.imdc.co.jp/>